

問い合わせ先

海上保安庁 第四管区海上保安本部

(人身事故統計及び同事故防止担当)

警備救難部 救難課長 灘波 陽子 (内線 3250)

(船舶海難統計担当)

交通部 企画課長 小野 祐輔 (内線 2610)

(船舶海難防止担当)

交通部 安全課長 安達 裕司 (内線 2620)

電話 052-661-1611 (代表)

平成27年1月9日



## 平成26年における第四管区内の海の事故発生状況 (速報)

平成26年に発生した第四管区内(愛知県・三重県)の船舶事故及び人身事故の発生数は、次のとおりとなりました。

船舶事故隻数136隻〔死者 1人〕 (平成25年142隻〔死者等 0人〕)

人身事故者数178人〔死者等81人〕 (平成25年185人〔死者等86人〕)

### 1 船舶事故の概要

#### (1) 船舶事故隻数の推移

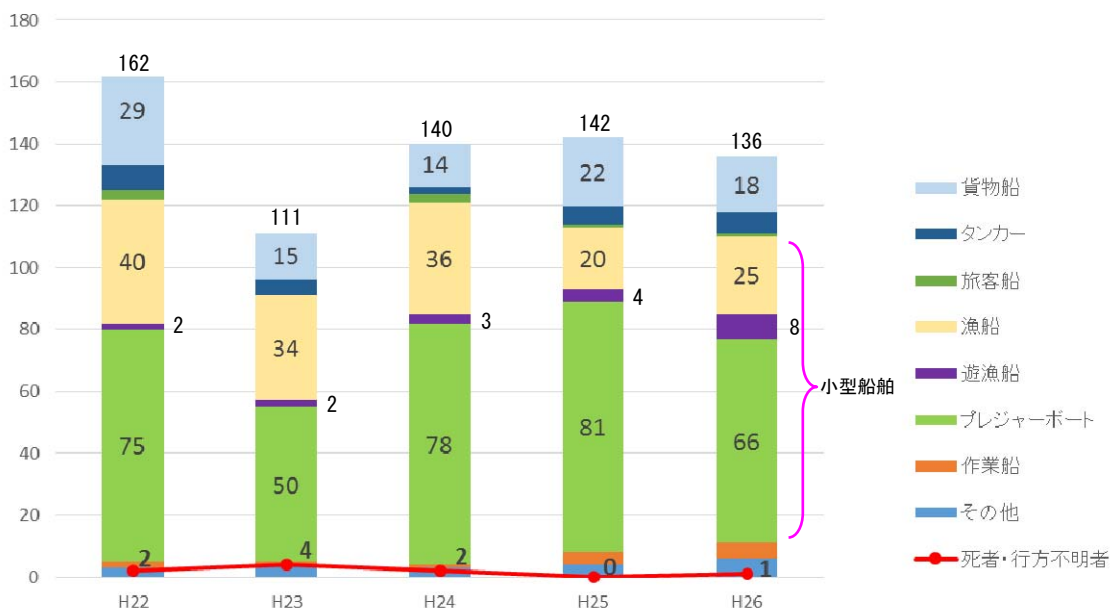
平成26年中の船舶事故隻数は136隻で、平成25年と比較して6隻減少し、過去5年間では平成23年に次いで少ない隻数となりました。

例年同様、小型船舶\*の事故が99隻と多くを占め、その中でもプレジャーボートの事故が最も多く66隻発生しました。

また、平成26年中の船舶事故による死者・行方不明者数は1人でした。

※小型船舶：プレジャーボート、漁船、遊漁船

[隻] 船舶事故隻数の推移(平成22年~26年)

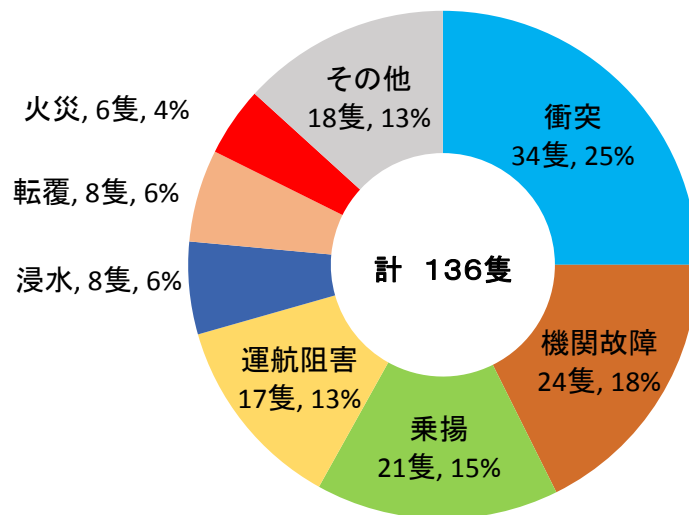


## (2) 船舶事故の内訳

船舶事故は、衝突が34隻(25%)で最も多く、次いで、機関故障が24隻(18%)の順となりました。

船舶事故の原因としては、見張り不十分、操船不適切及び機関取扱不良等の人為的ミスによるものが見受けられました。

船舶事故の内訳(平成26年)

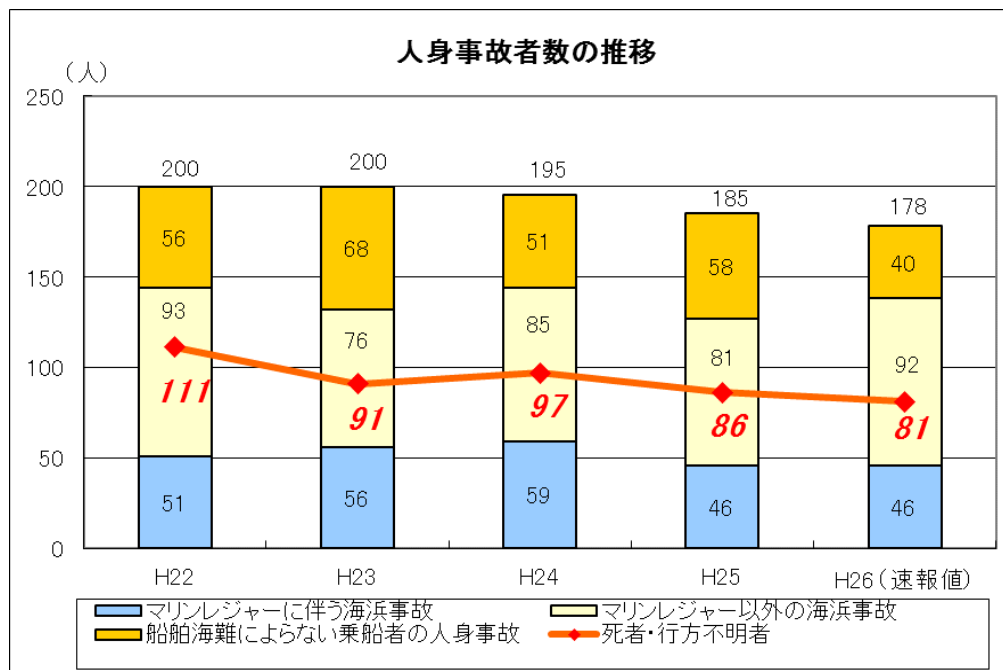


※運航障害：「バッテリー過放電」「燃料欠乏」等

## 2 人身事故の概要

### (1) 人身事故者数の推移

平成26年中の人身事故者数は178人で、このうち、死者・行方不明者数は81人となり、人身事故者数及び死者・行方不明者数ともに過去5年間で最も少ない結果となりました。

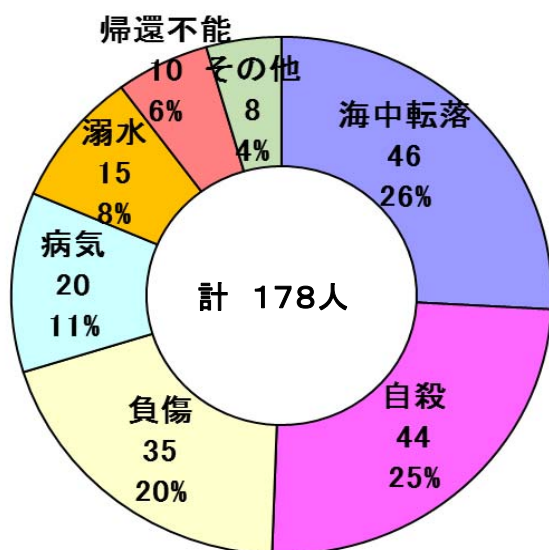


## (2) 人身事故の内訳

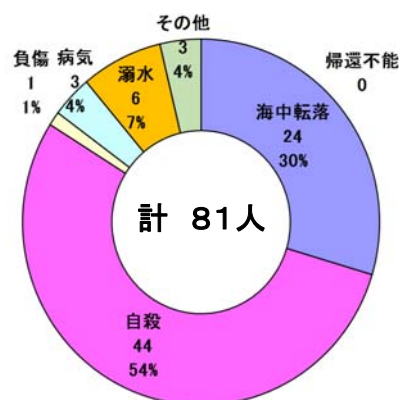
平成26年の人身事故において最も発生数の多かったのは、船舶や岸壁、防波堤からの「海中転落」で46人と人身事故者総数の約4分の1を占め、続いて「自殺」、「負傷」となっています。

海中転落事故の原因としては、防波堤や岸壁上における移動中や作業中における不注意の転落、岸壁上で自動車の運転操作ミス等による車両転落が多数を占めています。

### 人身事故の内訳（平成26年）



### うち、死亡・行方不明者における事故の内訳



## 3 事故事例

### (1) 船舶事故

#### 事例1 衝突 プレジャーボート（死亡）・漁船

平成26年11月24日午後1時頃、三重県志摩市所在の浜島港内で漂泊して遊漁中のプレジャーボートと漁獲物の水揚げのため同港へ向け約10ノット（時速約19km）で航行中の漁船が、双方の見張り不十分により衝突し、プレジャーボートの乗船者（救命胴衣非着用）が海中転落したものの。

海中転落した事故者は、同漁船により救助されたが、意識がなく、三重県立病院に搬送されたものの死亡が確認された。

#### 事例2 機関故障 プレジャーボート（ミニボート※）

平成26年10月16日午前8時15分頃、事故者は遊漁目的で友人1人を、操縦免許及び船舶検査が不要なミニボートに乗船させて三重県紀北町所在の島勝浦漁港を出港し、島勝浦沖で漂泊しながら釣りを行っていたところ、場所を移動するため機関を始動させようと何度も試みたが、プラグ着火部に燃料油が付着し機関が始動し

なかったため漂流し巡視艇に救助されたもの。

なお、事故者は、同年10月26日にも機関故障を原因とする事故を起こしている。

※ミニボート:船の長さ3m未満、推進機関の出力が1.5kw未満(約2馬力)、直ちにプロペラの回転を停止することができる機構を有する船舶その他プロペラによる人の身体の障害を防止する構造を有する船舶で小型船舶操縦免許、船舶検査が不要であるもの。

## (2) 人身事故

### 事例1 海中転落 救命胴衣非着用 41歳 男性

平成26年5月19日午後11時頃、事故者は友人2人とイカ釣りのため三重県尾鷲市所在の曾根漁港に到着。照明器具を持たずに釣り場へ移動中、岸壁が途切れていることに気づかず海中転落したもの。

その後、クーラーボックスに掛まり漂流中に救助依頼を受けた瀬渡船業者の小型船により救助された。

### 事例2 溺水 6歳 男児

平成26年8月13日午後3時頃、事故者は母親とその友人ら5名で愛知県知多郡南知多町所在の内海東浜海水浴場を訪れ遊泳中、親が目を離した隙に深みにはまって溺れたもの。

直後、付近にいた友人らが救助し、気道確保・胸骨圧迫を施したところ水を吐き出し意識を取戻した。念のため、病院に搬送され誤嚥性肺炎の疑いがあるため一日入院の措置が取られた。

### 事例3 溺水(死亡) 19歳 男性

平成26年8月17日午後2時30分頃、事故者は同僚数名と愛知県常滑市りんくうビーチを訪れ遊泳中、沖合い約10メートルで溺れているところを付近ライフセーバーが気づき救助に向かうも発見できなかった。

約1時間後に消防ダイバーが海底に沈んでいる該人を発見、病院へ搬送されるも海水吸引による溺水死と判断された。なお、ビーチに向かうバス内で飲酒をしていたとのことである。